

日本共産党市議団

小野寺幸恵・渡辺 満
工藤 良一・富岡 隆

代表質問

小野寺 幸恵

▽平和行政

「憲法の恒久平和の実現と非核三原則の趣旨から制定したのが非核平和都市条例であり、安保法制はその理念と真逆ではないか」と認識を求めました。また、日本国憲法施行70年の節目であることから、平和のモニメント設置を提案しました。市長は「安保法制は日本と世界の平和と安全を確かなものにするためである」との認識を示し、モニメントについては「考えていないが、別の形で次世代に継承することを考えたい」と答弁しました。



▽総合戦略と人口減少対策

経済的理由で結婚を控えたり、将来の子どもを「0人」と回答している若者が多い現状に触れ、総合戦略の優先施策に位置付けることを提案しました。

また、人口減少対策の一環として、子どもの医療費助成の年齢拡大や市営住宅への『新婚優先枠』

の創設を求めました。さらに、苫小牧駒澤大学に市内から通うことを条件に、無利子の奨学金貸付制度を創設することを提案し、「効果があると思う」と、前向きな答弁がありました。

▽まちなかの活性化

安全対策のためにサンプラザビルの囲い込みが計画されていることから、市のPRを取り入れた明るい囲いの検討や、市民のシンボルになる駅前にするため「市民参加型」で駅前交通広場再整備を進めることを提案しました。

予算委員会

★児童相談所の分室設置

富岡 隆

児童相談所の分室設置について、市は長い間要請し、27年度から「重点要望」としているにも関わらず、実現していない現状についていただきました。市長は、「分室設置には北海道の組織改革や組合協議が必要」、「道議会では苦小牧事情ばかりとヤジも飛ぶ」などの説明をしましたが、「1日も早



く理解してもらえるように北海道と協議を繰り返していく」と答弁しました。

★ウトナイ放課後クラブ

富岡 隆

児童数が増加するウトナイ小学校放課後クラブにおいて、新1年生の入学で待機児童が生まれる可能性が大きいことから、対策を求めました。教育部長は「待機児童を発生させてはならない。なんとか早く解決できる対応をしたい」と答弁しました。

★グループホームの運営改善

渡辺 満

グループホームの1事業者が、管理運営について再三の指導を受けながらも改善せずに、「勧告」指導されている問題を指摘し、改善を求めました。担当次長は「通常では考えられない」との認識を示し、「早期の改善・指導援助をする」と答弁しました。



「市長名で監査請求を行い、監査委員に報告し、責任の所在について判断を仰いでいる」と答弁しました。

★安全安心な公園の整備

工藤 良一

昨年6月に第2霊園内の安全対策を求めた際、「計画的に実施する」と答弁したにも関わらず予算化していないことを指摘し、あずまやのベンチや木製の階段などが危険な状態であることから、立て看板などによる注意喚起をすることを提案しました。



★公設地方卸売市場の労働環境

青果市場では、荷物の積み下ろしに使用するフォークリフトの一部に、ガソリンを燃料にするものがあり、排気ガスが場内に充満することがあります。これを解消するためにバッテリー式のフォークリフトの導入が必要ではないか、そして、導入を進めるため市としての補助などを、考えるべきではないかと提案しました。

※議会の詳細については、日本共産党市議団ホームページをご覧ください。